第14編　藍大島紬の染色法

藍大島紬とは，植物藍で絣の地色を紺色に染色した紬で，昭和6年に阿波藍で染色した藍大島が生産され，さらに昭和48年に，奄美に自生している琉球藍の藍製造と，藍大島の生産がなされた。別名これを正藍紬ともいう。

1．染色する藍の発酵法

これを染色する藍の発酵や琉球藍の製造は，前記第11編に記した藍液で染色する。

2．藍大島の堅牢度と染色法について

藍大島は植物藍で，濃厚に染色するので，摩擦に不堅牢になる欠点があるため，この紬生産の障害となっているので，できる限り堅牢に染色することが，必要である。それで，下記の染色は藍液や酸化発色の理論を勘案し，少しでも堅牢になるよう，乾燥期間を長くし，又水洗いして，不純物を除去して堅牢になるよう染色した。

第1章　染色法

1．絣染色法

ア　1回目の染色

糊抜きした絣ムシロを発酵した藍液に，約10分間浸染し，その間液中で静かに絣の十ノ字を切らすよう，もみ染する。その後ローラ機で絣を絞った後，絣ムシロをたたき台にたたいて，空気酸化，発色させる。この染色操作をさらに2回おこなった後，1週間から10日位，自然乾燥後，水洗いして不純物を洗い取り，さらに2・3日自然乾燥する。

イ　2回目の染色

上記(ア)によって染色，乾燥した絣ムシロを(ア)の方法で染色する。

ウ　さらに3回，4回，5回と上記(ア)の方法で染色し，絣ムシロの地色を紺色に染色する。ここでは5回の工程を記してあるが，藍液の状態によって濃度が異なるので，この5回でなく，染色回数を増減して藍大島独特の紺色に染色する。

エ　豆汁処理

前記によって乾燥した絣ムシロを，1夜間水に浸漬した大豆を，泥状にしたものを，綿布で濾過した豆汁に2・3時間，常温液に浸漬した後，かるく脱水してそのまま乾燥し，仕上げ加工に移る。

2. 地糸染色法

ア　1回目の染色

糸は水洗い，脱水後，藍液に約10分間浸漬し，時々糸を繰り返し，染色した後，糸を強く絞って空気に晒し，酸化発色させる。この染色操作をさらに2回おこなって，そのまま1週間から10日，自然乾燥後水洗いし，さらに乾燥する。

イ　豆汁処理

前記によって乾燥した糸を，豆汁に約2時間，常温液で浸漬した後，脱水してそのまま乾燥する。

ウ　2回目の染色

(イ)によって乾燥した糸を(ア)の方法で染色して乾燥

エ　さらに3回，4回，5回と，(ア)の方法で染色する。ここで5回と記してあるが，この回数は，絣の地色と合うように，濃度及び色目共に染色すること。

備　考

ア　この藍大島の染色は，上記の回数で染色したが，藍液の発酵状態や，インジゴピュアー含有量によって，染色濃度が異なるので，染色回数を増減して，藍大島独特の紺色に染色すること。又，地あき柄は，ヨコ段ムラが発生するので，柄が離れている紬は加工しない方がよい。

イ　ヨコ絣は十ノ字が良く切れて，染色されにくいことや，色ムラになるので，整経は2手取りにし，帯締めすること。

3. 摺込染法

この藍大島にも，部分的に摺込染ができる。その方法は前記，合成染料に準じて摺込染し，さらに，蒸熱処理して水洗い後，シルクフィックス3Aで色止め処理，水洗いして仕上げる。この藍大島の地色が淡いと，摺込液が地色に染色され，変色することがある。

第2章　摩擦堅牢度増進処理及び仕上げ法

1. 水洗ソーピング

藍大島紬は，摩擦に不堅牢な欠点があるので，藍染の不純物や堅牢に染着されなかったものを洗い去り，堅牢に染着したものだけを残すのが，この水洗ソーピングの目的である。その方法は，ランドリンNTを水1ℓに30ccの割に混合した

液で，ソーピングをした後，清水で十分洗い，その後水1ℓに酢酸5ccの割の液に5分間浸漬した後，そのまま乾燥する。

2. 色止め処理

水1ℓにハイプレンAを80cc程度の割で混合した液で，2・3回浸めして絞り，糸の内部まで液を浸透させた後，糸を布で包んで，脱水機で強く絞り乾燥する。この乾燥中，2・3回棒絞りして，糸を柔軟にする。

3. 柔軟処理

上記のハイプレンで処理すると，絹糸が堅くなるので，これを柔軟にする処理である。処理する水量は，糸の20倍量にし，例えばこの水が20ℓとすると，ユニソフナーAを50cc。ユニソフナーBを50cc，Cを50cc，Dを50cc，酢酸約4滴の順に加えて撹拌すると，5～10分で液は透明になる。この液で30分間，糸を操作した後糸を絞り，水洗いしないようにそのまま乾燥する。この間，糸を2・3回棒絞りして，糸を柔軟にする。なお，この乾燥は，熱風乾燥するのが良い。

4. 仕上げ亜美処理

上記のユニソフナー処理によって，糸が柔軟になっていると思うが，不十分な場合，さらにライトシリコン処理をする。なお，このライトシリコン処理は，後の泥染糸の亜美処理法に順じておこなう。

まとめ

ア　この藍大島の染色は，十ノ字が良く切れて，染色されにくいので，整経における手取り及び染色前の絣ムシロの糊抜き，染色，絣絞り，空気酸化（たたき皿で絣をたたいて空気酸化発色のための操作）に十分注意し，十ノ字を切らすように染色すること。

イ　又，この藍大島は摩擦に不堅牢な欠点があるので，良く発酵した藍液で染色することと，色止め処理は，地風を悪くしないよう，処理すること。堅牢度が良くても，地風が堅くなれば，商品価値はないので両方相まって染色や色止め処理，及び仕上げ加工すること。

ウ　藍大島紬の堅牢度について

この染色の堅牢度については，前にも記してあるが，熱湯，洗濯，日光，汗には堅牢であるが，摩擦に不堅牢な欠点がある。又，この染色は，蒸熱処理やフィックス等で処理しても，堅牢にはならない。このように，濃藍染は摩擦に不堅牢

な欠点があるが，数年経つと摩擦が良くなる。これは色が枯れたと表現することがある。このように，摩擦に不堅牢な点があるので，ハイプレンによる色止め処理法を記したが，これは樹脂加工による方法であるから，好ましい処理法ではない。ただ，参考までに記しただけであることを付記する。